

重大な事故防止に向けた安全対策

【 32 ポート 】

1 競技特性

栃木県においてボート競技の練習は、渡良瀬川と谷中湖で行われている。今まで大きな事故は起きていないが、川または湖という自然の環境下で人間が行っている競技であるので、予断や準備不足などによって命の危険にさらされることもあり得ることをいつも意識している必要がある。また、心身の限界近くまで追い込むことを求められる競技であるので、身体が不調なとき、精神的に不安定なときには思わぬ事故につながりやすい。自分の体調の変化には十分注意する必要がある。更に、川や湖には釣り舟が浮いていたり、釣り人が岸から竿を伸ばしていたりすることもあるため、周囲の状況を把握し的確に判断していくことも求められる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 艇庫内でリガー等にぶつかる。 ・ 艇庫内での艇の落下 ・ 艇を運ぶ際に足場の悪いところで転ぶ。 ・ 川岸のテトラポットに衝突し、船底に穴が開き沈没する。 ・ 水門付近での落下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 擦り傷、切り傷 ・ 打撲、擦り傷、切り傷 ・ 擦り傷、切り傷 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 水門に挟まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の確認と声かけ ・ 艇の固定を忘れない。高所の艇の出し入れに十分注意する。 ・ 階段や、雨後の滑りやすいところに注意する。 ・ 岸に寄りすぎないように注意する。 ・ 水門付近では、漕がない。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ シングルスカルを単独で出艇している時に転覆する。 ・ 艇同士の衝突により、身体が損傷したり、艇が転覆・沈没する。 ・ 川岸のテトラポットに衝突し、船底に穴が開き沈没する。 ・ 艇同士の衝突 ・ 橋桁への衝突 ・ オールが折れる。 ・ オールが水中から抜けない。 ・ 水門の開門により、流される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体への障害はなし。 ・ 腰の打撲、手脚の擦り傷などの軽傷 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 打撲、擦り傷、切り傷、骨折 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 転覆による擦り傷切り傷。 ・ 打撲、捻挫、擦り傷、切り傷。 ・ 転覆による擦り傷切り傷。水門に挟まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単独での出艇は行わない。 ・ 航行ルールを厳守させるとともに、岸から監視する。 ・ 岸に寄りすぎないように注意する。 ・ 航行ルールの徹底。声かけ。暗いときのライトの点灯 ・ 安全確認。橋桁周辺の徐行。 ・ オールの点検。 ・ オールの角度の調整。 ・ 渡良瀬川河川管理事務所との綿密な連絡。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 突然の天候不良により、落雷・突風を受けて転覆する。 ・ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転覆や落雷による負傷。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天候の情報を得てから出艇することを徹底するとともに、突然の天気の変化の際には早めに艇を上げるよう指示しておく。 ・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

ローイング安全マニュアル 社団法人日本ボート協会編

安全確認チェックリスト

【 32 ボート 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設 ・ 設備 ・ 用具	【用具】	
	艇に破損箇所はないか。	
	オールに亀裂はないか。	
	ストレッチャーやリガーのネジはやボルトはしっかり締まっているか。	
	艇を運搬する道は安全か。	
	トランシーバーは準備されているか。	
	【事故時の体制】	
	緊急時の連絡体制は整備されているか。	
	応急処置・AEDの使い方について理解しているか。	
医薬品などの準備はできているか。		
活動 内容	【練習方法】	
	転覆時の対応や救助方法を理解しているか。	
	航行ルールを守っているか。	
	浅瀬や水門近くで練習していないか。	
	単独で練習していないか。	
	適切な水分補給をしているか。	
	故障や体調不良のまま練習していないか。	
	炎天下では、帽子を着用しているか。	
トランシーバーを持っているか。		
環境 条件 等	【天候】	
	その日の天気予報はチェックしたか。	
	雷または雷雲が近くにはないか。	
	強風や突風が吹いていないか。	
	視界は十分か。	
	【水面】	
	白波が立っていないか。	
	急激な水位の増減があったり、流れは速くないか。	
	浮遊物が浮いていたり杭等が出ていたりすることはないか。	
艇の数や釣り船の有無を確認したか。		
発 令 時 ラ 対 応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)